

平成20年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成21年3月6日(金)午後1時30分～

2 場 所 考古博物館 多目的室

3 出席者(敬称略)

(委員) 大森きよ子、椎名慎太郎、谷口一夫、福田一夫、三井久美子、
宮崎秀子、持田利雄、湯川邦夫

(事務局) 藤原館長、渡辺次長、保坂学芸課長、学芸課員4名、総務課員2名
(教育委員会) 佐藤教育次長、三枝学術文化財課長、学術文化財課員2名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 教育次長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 議事

(5) その他

(6) 閉会

5 会議に付した事案の件名

(1) 平成20年度考古博物館経過事業について

(2) 平成21年度考古博物館予定事業について

(3) その他

6 議事の概要

(委員) 20年度特別展は銅鐸が展示された。展示物にひかれて来る人もいる。
21年度特別展にも目玉となるような展示はあるか。

(事務局) 卑弥呼をイメージ出来るようなものを集めたい。女性の頭飾りなど。
吉野ヶ里遺跡とも交渉したい。

(委員) 特別展の観覧者には、曾根丘陵公園内の方形周溝墓にも足を運んで欲しい。

(委員) 大勢の観覧者に来てほしい。PR活動はどのようにするのか。

(事務局) 県の広聴広報課を通じてあらゆる方法でPRする。TV・新聞等のマスコミ
にも働きかけていく。

(委員) 特別展と企画展の違いは。

(事務局) 特別展は年1回開催で予算措置がある。企画展は予算措置はないが、手持ちの資料等を展示して開催する。

(委員) 特別展の開催期間に、県民の日(11/20)を含んでいるのはよいことだ。
19年度より20年度の方が学校利用が多い。PRした成果か。
子どもたちに来てほしいので、学校の先生に直接PRしてほしい。

(委員) 県外中学校の利用が多いのは何故か。何が魅力なのか。

(事務局) 県内に宿泊施設を持っている学校が体験学習の場を求めて来館している。
利用実績のある荒川区などに集中的にPRをした。

(委員) 小学校の体験授業等にも使ってもらえるようにしたらどうか。

(学術文化財課) 考古博物館も含めた県立4館の体験プログラムのパンフレットを学校に配付している。じわじわと知られてきている。

(委員) 「チャレンジ博物館」などに子供たちはどうやって参加しているのか。
考古博物館に来館するための交通手段がない。送り迎えのために県が車を貸すことなどを考えると良いのでは。

(委員) 子どもは楽しいとすぐ親に話す。そういう機会を与えてほしい。

(委員) 「チャレンジ博物館」参加者は、昨年度はどの地域の人が多いか。

(事務局) 比較的、近くの地域の子供が多い。

(委員) 遠くの子供は参加しにくいと思う。期間を延ばしたり、学校行事として取り上げられるようになると、参加する機会が増えると思う。
「わたしたちの研究室」に感心した。もっとPRして欲しい。
夏休みの自由研究で、理科のように、多くの子供に取り組んで欲しい。

(事務局) 平日には、学校向けの体験型メニューを別途用意してある。

(委員) ユニークで楽しそうなメニュー名にして欲しい。

(委員) 企画展「甲府市内の出土品」が面白かった。甲府市で一番知名度が高いのは甲府城なので、甲府城に関連した出土品を特集した企画展又は甲府城のエリアを設ければ観覧者が増えるのではないかと。

夏休みの企画の参加者は多い。その期間の企画を増やしたらよいのでは。

トンボ玉づくりは、回数を増やしたり大人向けに開催してもよいのでは。

(委員) 銅鐸コンサートと落語会の企画は良かった。来年度も特別展にあわせて歴史に興味のない人も振り向かせるきっかけとなるようなユニークな企画をしてほしい。

(委員) 夏休みの宿題に卑弥呼のことを書かせると良いかもしれない。親が興味を持っていれば子どもに取り組ませると思う。

(委員) 釈迦堂博物館のファンクラブに入っているが、イベント情報などが個人あてに来る。そういうPR方法も効果がある。